

家庭医療学研究会
(のちの日本家庭医
療学会)が発足

☎ p.50

佐賀医科大学が
国公立大学初の
総合診療部門を
設置

市立舞鶴市民病
院で“大リーガー医”
プログラムが開始

☎ p.36

自治医科大学が
大宮医療センター
(現 さいたま医療セ
ンター)を開院

☎ p.39

自治医科大学が
開学 ☎ p.38

日本プライマリ・ケア
学会が設立

☎ p.52

自治医科大学が
地域医療学教室
を設置

Index

1972年

1978年

1981年

1986年

1989年

1963年

1976年

1980年

1985

1987年

永井友二郎氏ら
「実地医家のため
の会」を設立
(日本プライマリ・ケ
ア学会の前身)

☎ p.49

天理よろづ相談所
病院が日本初の総
合診療部門を設
置

厚生省「臨床研修
指導医海外派遣
制度」が開始

☎ p.23

川崎医科大学が
大学初の総合診
療部門を設置

厚生省「家庭医に
関する懇談会」が
開始 ☎ p.29

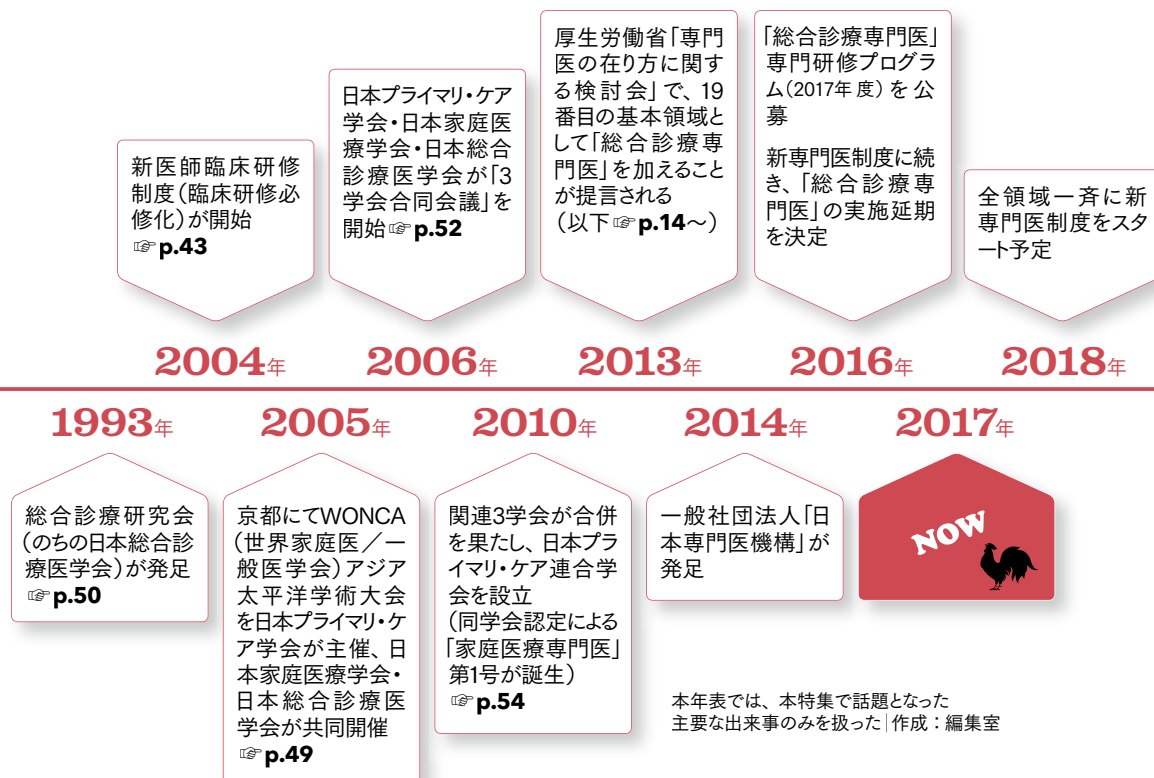
厚生省「家庭医に
関する懇談会」最
終報告書で、家庭
医機能10項目が示
される ☎ p.30

国立東京第二病院
(現 東京医療セン
ター)が総合診療
科を設立 ☎ p.38

特集 企画 | 松村真司

総合診療 の“夜明け”

キーマンが語り尽くした
「来し方、行く末」



総合診療の“夜明け”が近い――。

新専門医制度の実施延期に伴い、19番目の基本領域専門医として新たに位置づけられた「総合診療専門医」も、その運用は先送りとなった。目下、2018年度からのスタートに向け、日本専門医機構において議論が重ねられている。いずれにせよ、わが国における公的な資格として、総合診療専門医が生まれてくるのは間違いない。これは、長年、総合診療に関わってきた人々にとって、まさに“夜明け”とも言うべき出来事である。

まずは新専門医制度が混乱なくスタートし、研修プログラムが順調に運営され、多くの人が納得する認定が行われることが先決である。そのうえで、この新しい「総合診療専門医」にとって重要なのは、その専門医たちが実際に地域で診療に携わり、真に国民の信頼を得ていくという、長年にわたる今後の努力である。そのためには、ここに至るまでの多くの挑戦と努力の歴史を学ぶことも重要だ。そこで本特集では、その歴史を振り返り、「総合診療（専門）医」の意義を改めて見直すとともに、総合診療に携わってきた多くの人々の声を記録して、これを「総合診療」の未来の座標に据えたい。